

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：11201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26870055

研究課題名(和文)スターリンの「満蒙問題」、1921-1931年

研究課題名(英文)Stalin and 'the Manchurian and Mongolian problems'

## 研究代表者

麻田 雅文(Masafumi, Asada)

岩手大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：30626205

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：ソ連の満洲とモンゴルにおける国際政治への対応を中心に研究した。特に、スターリンとその側近が固めた党政治局の動向に注意を払うことで、ソ連中枢の政策決定のプロセスを解明することに努めた。そしてその成果の一部を、『満蒙 日露中の「最前線」』(講談社選書メチエ)にまとめた。この単著を発表してから、関心は第二次大戦後へと移り、二本の論文を公表した。現在はシベリア出兵へと時間をさかのぼり、初期ソ連と日本が国交を結ぶまでの七年間を扱った単著を準備中である。

研究成果の概要(英文)：For the Soviet Union and Stalin, Manchuria and Mongolia had the significant meanings. They were not only the border regions with China and Japan but also the defense line for the Russian Far East. Stalin had faced many incidents and troubles with Japan and China in these regions. How he solved these questions? And How the domestic problems were inspired by these events? In this research project, I published the articles and books, considering the Siberian Intervention of Japan, Zhang Zuolin assassination incident, Mukden Incident, and battles of Khalkhin Gol.

研究分野：東アジア国際関係史

キーワード：スターリン ソ連 満洲 モンゴル 満洲事変 日ソ関係 シベリア出兵

## 1. 研究開始当初の背景

1920年代から30年代、ソ連は様々なチャンネルを使って、中国を自国にひき寄せ、もう一つのアジアの大国、日本との対決に備えようとしていた。

公式には、北京政府とソ連は1924年に国交を樹立し、外交関係を持っていた。しかし、その北京政府打倒を目指す国民党にも軍事顧問などを派遣し、熱心に支援した。また、コミンテルンを介した中国共産党の創設により、ソ連は既存の政府と新旧の革命勢力を取り込んだ、包括的な対中政策を展開していた。しかし、ソ連はそれだけではなく、中国東北すなわち満洲に展開した奉天軍閥とも密接なつながりを有していた。本研究は、奉天軍閥とのつながりを検証することで、ソ連の知られざる対中政策に光を当て、その多面性を解明することにあつた。

ソ連の対中政策を論じた研究はいくつかあるが、ロシア側の一次史料まで活用したものとなると限られる。これまでは主に、ロシア連邦外交文書館(АВРРФ)所蔵の文書を中心とした、ソ連と中国間の外交文書が中心に分析されてきた。また、コミンテルンの文書から対中政策を検証したものもある。

これに対し本研究は、スターリンの個人文書と党政治局の決定を重視し、彼のパーソナリティも絡めて、ソ連中枢部の対中、対日政策を考察することを目指した。

## 2. 研究の目的

「満蒙」の研究は、日本人の書いた日本語史料に基づき、日本人がこれを牽引してきた。しかし、近年では、中国やロシアをはじめとして、周辺各国でも急速に研究が進み、「満蒙」を日本からの視点からだけで描くことは、地域の歴史を矮小化することになりかねない。

本研究は「満蒙」と隣接したソ連の視点か

らこの地域を見ることで、従来の日本の視点を重視した研究を相対化することにつなげようとした。

その上で、中国東北の自立した政権であった張作霖・張学良政権に、新しい光を当てる。さらに、アジアにおいて、ロシア革命の衝撃がいかにかに吸収され、利用され、そして翻弄されたのかを明らかにすることも目的とした。満洲国を建国することで、日本がこの地域と密接な関係を築いた1930年代の中国東北を考察する上でも、基礎となる知見を提供することも目標とした。

## 3. 研究の方法

これまで刊行されたロシア語史料集と、ロシア政府がネット上に公開した史料の読解をした上で、さらにロシアの文書館などで史料を追加収集することを想定していた。

しかし、台湾において、中ソ関係の重要な史料が比較的容易に手に入ることが分かり、2015年度からは、台北の国史館における史料収集に重点を置くようになった。

国史館における史料収集は、現地赶赴して筆写することで進めた。

この他に、研究に必須である『蔣中正先生年譜長編』など、多くの必要な参考文献を買い揃えることで研究を進めることができた。

一方、ロシアの文書館における史料収集に時間をあまり取ることができなかったのは遺憾である。しかし、代わりに多くの関連史料を購うことで、その穴を埋めることができた。現地での史料調査は、こうした文献をよみこなした上での、次の課題となる。

## 4. 研究成果

スターリンとその指導部から見た「満蒙問題」について、1920年代から1945年までを考察したのが、『満蒙 日露中の「最前線」』である。本書では、ソ連側のみならず中国側、

日本側の視点も取り入れることで、この時期の東アジア国際関係史の研究に資するものである。

スターリンとその側近にとって、1920年代の中国の内戦は、一面において日本との闘争でもあった。親日的だった張作霖を倒すため、郭松齢や馮玉祥を支援していた。さらに、国民党の北伐を支援することで張作霖の打倒を図ったが、上海クーデターにより失敗している。結果的に、関東軍の張作霖爆殺は、ソ連にとって好都合であった。日本が自ら張作霖を始末したからである。このように、張作霖をめぐる国際関係の動向の解明には、ソ連が決定的に重要であることを本書で示すことができた。

今後については、1930年代に力を入れて、ソ連の対アジア政策、そして満洲国とモンゴル人民共和国の問題を再考してゆくつもりである。

論文については戦後のものが二本あるが、これは採択前の課題の継続が形となったものである。鉄道をめぐる、第二次大戦後のパワーポリティクスを明らかにする事になった。この研究については、特に中国長春鉄道を中心に、継続してゆくことが必要であるが、史料状況が制約されているのは否めない。さらなる研究には、史料の開示を待つことが必要である。

本研究課題に関連する、より直接的な成果はシベリア出兵に関する調査研究だが、こちらについては、2016年度内に単著を刊行予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2件)

①麻田雅文「中国長春鉄道の返還をめぐる中ソ関係 1949-1952年」『アジア研究』第61巻

第1号、2015年

②麻田雅文「スターリンの戦後極東戦略と鉄道、1944-1950年—中国東北・北朝鮮・サハリンを事例に—」『日本植民地研究』第26号、2014年

[学会発表] (計 6件)

①麻田雅文「ソ連、特別赤旗極東軍の栄光と転落—奉ソ紛争、満洲事変、張鼓峰事件—」[招待有り]

軍事史学会第104回関西支部定例研究会、2015年4月26日

②麻田雅文「張作霖とソ連の『同盟』?—ソ連側史料からみた奉ソ協定(1924年)—」[招待有り]第24回近現代東北アジア地域史研究会大会、2014年12月7日

③麻田雅文「拙著『満蒙一日露中の「最前線」』の概要と、今後の研究「日本の親露派」について」[招待有り]近代日本政治外交史研究会第15回、2014年11月30日

④麻田雅文「中国長春鉄道の返還をめぐる中ソ関係 1949-1953年」[招待有り]冷戦研究会第16回例会、2014年11月29日

⑤麻田雅文「斯大林的战后远东战略与铁路(1944-1950年):以中国东北、北朝鲜,萨哈林为事例」[招待有り]国际关系史工作坊(第2期)、2014年11月2日

⑥麻田雅文「ソ連側から見た奉ソ紛争、1929年—ソ連邦初の対外戦争—」第19回東アジア近代史学会研究大会、2014年6月21日

[図書] (計 2件)

①麻田雅文「ロシアと満洲をつないだ中東鉄

道の歴史―一八九六～一九三五年―」加藤聖文，田畑光永，松重充浩編『挑戦する満洲研究―地域・民族・時間―』東方書店、2015年

②麻田雅文『満蒙 日露中の「最前線」』講談社、2014年

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

麻田 雅文 (ASADA MASAFUMI)  
岩手大学人文社会科学部准教授

研究者番号：30626205

### (2) 研究分担者

なし ( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

なし ( )

研究者番号：